

トマト、ミニトマト*1(野菜類の登録農薬も使用できる)

薬剤名	ト	ミ	作用機構分類コード	人畜毒性	使用時期(日数)	使用回数	疫病	灰かき病	葉かき病	すす病	斑点病	萎凋病	菌核病	苗木立枯病	輪紋病	褐色輪紋病	うどんこ病	炭疽病	白絹病	斑点細菌病	かいよう病	茎えそ細菌病	青枯病	軟腐病
カリグリーン溶	☆	☆	NC		1	-		◎	◎								◎							
サフオイル乳	☆	☆	NC		1	-											◎							
クプロシールドFL	☆	☆	M1		*e	-	◎		◎	◎											◎			
コサイド3000DF	☆	☆	M1		-	-	◎															◎		
ドイツポルダー-A水	☆	☆	M1		-	-	◎		◎		◎													
I Cポルダー-66DFL	☆	☆	M1		*e	-	◎																	
Zポルダー水	☆	☆	M1		-	-	◎			◎					◎									
クリーンワイドFL	☆	☆	M2・M1		-	-	◎		◎	◎							◎							
イオウFL	☆	☆	M2		*e	-												◎						
アグロケア水	☆		BM2		1	-		◎	◎								◎							
インプレッションクリア水	☆	☆	BM2		*e	-			◎	◎														
エコショット顆水	☆	☆	BM2		1	-			◎															
パチスター水	☆	☆	BM2		*e	-		◎	◎								◎							
ポトキラー水	☆	☆	BM2		*e	-		◎	◎								◎							
マスタピース水	☆	☆	NC		1	-															◎	◎		◎
ジーファイン水	☆	☆	NC・M1		1	-	◎		◎	◎														
グリーンカップ水	☆	☆	M1・BM2		1	-	◎		◎	◎														
トップジンM水 [㊟]	☆	☆	1		1	5		◎	◎				◎											
ベンレート水 [㊟]	☆		1		1	5		◎	◎				◎											
	☆	☆		1	3		◎	◎					◎											
	☆	☆		*b	2						◎													
エトフィンFL	☆		22		1	4	◎																	
クロスアウトFL	☆	☆	50		1	2											◎							
アフエットFL	☆		7		1	3		◎	◎	◎			◎				◎							
	☆	☆		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
カナメFL	☆	☆	7		1	4		◎	◎	◎	◎	◎	◎			◎			◎					
カンタスDF	☆	☆	7		1	3		◎	◎				◎											
ゲンジャFL	☆	☆	7		1	3		◎	◎	◎			◎				◎							
バシタック水75	☆	☆	7		*a	1								®										
パレード20FL	☆	☆	7		1	3		◎	◎	◎	◎		◎				◎							
モンカット水	☆	☆	7		*a	1								®										
	☆	☆		種	1										®									
アミスター-20FL	☆		11		1	4		◎	◎															
ファンタジスタ顆水	☆	☆	11		1	3		◎	◎	◎	◎	◎	◎											
ライメイFL	☆	☆	21		1	4	◎																	
ランマンFL	☆	☆	21		1	4	◎																	
フルビカFL	☆	☆	9		1	4		◎																
マイコシールド水	☆		41		*g	2															◎			
セイビアー-FL20	☆	☆	12		1	3		◎			◎													
スミレックス水	☆		2		1	3		◎																
ロブラール500アクアFL	☆		2		1	3		◎																
ロブラール水	☆	☆	2		1	3		◎			◎				◎									

アクトアクト

トマト、ミニトマト*1 (野菜類の登録農薬も使用できる)

薬剤名	ト マ ト	ミ ニ マ ト	作用 機 構 分 類 コ ー ド	人 畜 毒 性	使 用 時 期 (日 数)	使 用 回 数	疫 病	灰 色 か び 病	葉 か び 病	す ず か び 病	斑 点 病	萎 凋 病	菌 核 病	苗 立 枯 病	輪 紋 病	褐 色 輪 紋 病	う どん こ 病	炭 疽 病	白 絹 網 病	斑 点 細 菌 病	か い よ う 病	茎 え そ 細 菌 病	青 枯 病	軟 腐 病
リゾレックス水	☆	☆	14		*c	1																		
サブロー乳	☆		3			1			◎	◎							◎							
スヨア顆水	☆		3			1			◎	◎														
トリフミン水	☆	☆	3			1			◎	◎							◎							
トリフミン乳	☆	☆	3			1			◎	◎							◎							
セーフガード乳	☆		3			1			◎															
ピクシオDF	☆	☆	17			1		◎					◎											
ポリオキシシAL溶	☆		19			1			◎	◎														
フェスティバル水	☆	☆	40			1		◎																
レーパスFL	☆	☆	40			1		◎																
ピシロックFL	☆	☆	U17			1		◎																
サンヨー乳	☆	☆	M1			1		◎	◎								◎							
ジマンダイセン水	☆		M3			1		◎	◎						◎									
ペンコゼブFL	☆	☆	M3			1		◎	◎	◎					◎									
マンゼート水	☆		M3			1		◎	◎															
オーソサイド水80	☆		M4			1		◎	◎						種									
	☆					*f		1	5						灌									
	☆							1	4	◎	◎	◎	◎			◎	◎	◎	◎					
ダコニール1000FL	☆		M5			*d		2							◎									
	☆							1	2	◎	◎	◎	◎			◎	◎	◎	◎					
バルクトFL	☆	☆	M7			1		3	2	◎	◎	◎	◎				◎							
バルミノFL	☆	☆	M10			1		5										◎						
エコピタ液	☆	☆	-			1		-										◎						
リドミルゴールドMZ顆水	☆		4・M3			1		2	◎															
フォリオゴールドFL	☆		4・M5			1		4	◎		◎													
	☆					1		2	◎		◎													
ゲッター水㊦	☆		1・10			1		5		◎	◎			◎										
	☆					1		3		◎	◎			◎										
ニマイバー水㊧	☆	☆	1・10			1		3		◎	◎	◎		◎			◎							
ベンレートT水20㊨	☆		M3・1			は		1					◎											
	☆					種		1					◎											
スミブレンド水	☆		10・2			1		3		◎														
シグナムWDG	☆	☆	7・11			1		2		◎	◎	◎		◎		◎		◎						
ピカットFL	☆	☆	7・9			1		3		◎	◎	◎					◎							
	☆					1		3		◎	◎	◎					◎							
ベジセイバーFL	☆		7・M5			1		2		◎	◎	◎	◎				◎							
	☆	☆				1		2		◎	◎	◎	◎				◎							
ホライズンDF	☆	☆	11・27			1		3		◎		◎												
アミスターオブティFL	☆		11・M5			1		4		◎	◎	◎	◎							◎				
	☆	☆				1		2		◎	◎	◎	◎							◎				
ファンベル顆水	☆		11・M7			1		3		◎	◎	◎		◎			◎							
ダイナモ顆水	☆	☆	21・27			1		3		◎														
ドーシャスFL	☆		21・M5			1		4		◎		◎				◎								
ショウチノスケFL	☆	☆	9・U13			1		2		◎							◎							

アマトニール・アマト

トマト、ミニトマト*1 (野菜類の登録農薬も使用できる)

薬剤名	ト	ミ	作用 機 構 分 類 コ ー ド	人 使 用 時 期 (日 数)	使 用 回 数	ア	コ	ア	ハ	チ	オ	ハ	シ	ヨ	ト	コ	ケ	ハ	ト	チ
						ブ	ナ	ザ	モ	バ	オ	ス	ロ	イ	チ	モ	キ	ネ	テ	ニ
	ト	マ	ト	性	数	類	類	類	類	類	類	類	類	類	類	類	類	類	類	類
ダントツ粒	☆	☆	4A	*k *h *c	1	◎	◎	◎												
バリアード顆水	☆	☆	4A	*m	3	◎	◎	◎	◎											
ベストガード溶	☆	☆	4A		3	◎	◎	◎												
ベストガード粒	☆	☆	4A	*g *k *h *c	1	◎	◎	◎	◎											
モスピラン顆溶	☆	☆	4A	*o *c *n	3	◎	◎	◎												
モスピラン粒	☆	☆	4A		1	◎	◎		ト											
トランスフォームFL	☆	☆	4C		2	◎	◎													◎
ディアナSC	☆	☆	5		2	◎	◎	◎	◎	◎	◎				◎					
ダブルシューターSE	☆	☆	5		2	◎	◎	◎	◎		◎				◎				◎	
アグリメック乳	☆	☆	6	劇	3	◎	◎	◎	ト						◎					
アニキ乳	☆	☆	6		3	◎	◎	ミ			◎	◎			◎					◎
アフーム乳	☆	☆	6		5	◎	◎	◎		◎					◎					◎
コルト顆水	☆	☆	9B		3	◎	◎													
チェス顆水	☆	☆	9B		3	◎	◎													
コテツFL	☆	☆	13	劇	3			ミ			◎				◎				ナ	◎
アタブロン乳	☆	☆	15		3		タ			◎	◎									
カスケード乳	☆	☆	15		4	◎	◎	ミ	ハ	◎	◎	◎								◎
ノーモルト乳	☆	☆	15		2	◎				◎	◎									
マッチ乳	☆	☆	15		4	◎	◎	◎		◎	◎									◎
トリガード液	☆	☆	17		2					◎	◎									
マトリックFL	☆	☆	18		3					◎										
マイトコーネFL	☆	☆	20D		7					◎										
トルネードエースDF	☆	☆	22A		1					◎	◎				◎					◎
ファイントリムDF	☆	☆	22A		2					◎	◎				◎					
アクセルFL	☆	☆	22B		1					◎	◎				◎					
クリアザールFL	☆	☆	23		2			◎												◎
モベントFL	☆	☆	23		3	◎	◎	◎												◎
フェニックス顆水	☆	☆	28		1					◎	◎				◎					
ブリロソソ粒	☆	☆	28	*f *e	1	◎	◎	◎	◎						◎					

アタラクシ・アタラク

トマト、ミニトマト*1(野菜類の登録農薬も使用できる)

主要病害虫発生長	1月	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
病 害	早熟 トンネル											
	疫病											
	灰色かび病											
	葉かび病											
	根腐萎凋病											
	半促成 加温											
	灰色かび病											
病 害	葉かび病											
	うどんこ病											
	うどんこ病											
虫 害	アブラムシ類											
	オンシツコナジラミ											
	オオタバコガ											

作 型 — : 栽培期 — : 収穫期
病害虫発生長 — : 発生期 — : 発生盛期

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
疫病	定植後 ～梅雨期	<ol style="list-style-type: none"> マルチ栽培を行う。 発生を認めたら次の薬剤のいずれかを散布する。 カーゼートPZ水和剤 1000～1500倍 ダコニール1000(FL)☆# 1000倍 プロポーズ顆粒水和剤☆# トマト: 1000～1500倍 ミニトマト: 1500倍 ホライズンドライフロアブル☆ 1500～2500倍 ライメイフロアブル☆ 2000～4000倍 ランマンフロアブル●☆ 1000～2000倍 リドミルゴールド MZ(顆水)● 1000倍 	<p>梅雨明けの遅い年や抑制栽培で発生が多い。低温時には茎にも発生しやすい。</p> <p>病徴がウイルスによるえそ症状と類似するので注意する。</p> <p>●耐性菌を生じる恐れがあるので連用しない。</p> <p># トマトとミニトマトでは使用回数異なるので注意する。</p>

*1: トマトとミニトマト(直径3cm以下のもの)は使用できる農薬が異なる。
☆: トマトとミニトマトの両方に使用できる農薬(無印はトマトのみに登録のある農薬)

アブラムシ・オンシツコナジラミ

トマト、ミニトマト*1(野菜類の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
灰色かび病	生育期	<p>1. 施設では多湿にならないように灌水、換気、温度に注意する。</p> <p>2. 施設栽培では発病前からくん煙剤によるくん煙を行う(くん煙剤の項参照)。</p> <p>3. 発病前から次の薬剤のダクト内投入を行う。 ボトキラー水和剤* 10～15g/10a/日</p> <p>4. 次の薬剤のいずれかを散布する。 アミスター20フロアブル 2000倍 カンタスドライフロアブル☆ 1000～1500倍 ゲッター水和剤☆●#㊦ トマト: 1000～1500倍 ミニトマト: 1500倍 ジャストミート顆粒水和剤 2000～3000倍 スミブレンド水和剤● 2000倍 セイビアーフロアブル20☆ 1000～1500倍 フルピカフロアブル☆● 2000～3000倍 ベルコートフロアブル☆# トマト: 2000～4000倍 ミニトマト: 4000倍 ロブラール水和剤☆● 1000～1500倍</p>	<p>施設栽培で気温20℃前後、多湿が続くときに発生が多い。露地でも低温、多湿のときに発生する。また、花がらは本病の温床となるので除去する。</p> <p>*野菜類での登録 発病果をとり除いてから薬剤を散布する。</p> <p>㊦:チオファネートメチル含有剤 ㊧:ベノミル含有剤 ㊦を使用した場合には同じ作での㊧は使用しないこと。その逆も同様(種子への処理及び塗布処理を除く)。</p> <p># トマトとミニトマトで使用回数が異なるので注意する。</p> <p>●耐性菌を生じる恐れがあるので連用しない。</p>

*1: トマトとミニトマト(直径3cm以下のもの)は使用できる農薬が異なる。

☆: トマトとミニトマトの両方に使用できる農薬(無印はトマトのみに登録のある農薬)

トマト、ミニトマト*1(野菜類の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
葉かび病	生育期	<p>1. 換気をはかり施設内が多湿にならないように注意する。</p> <p>2. 施設栽培では発病前からくん煙剤によるくん煙を行う(くん煙剤の項参照)。</p> <p>3. 次の薬剤のいずれかを散布する。</p> <p>アミスター20フロアブル 2000倍 ダコニール1000(FL)☆# 1000倍 テーク水和剤● 800倍 トリフミン水和剤☆● 3000～5000倍 ベルクートフロアブル☆# トマト: 2000～4000倍 ミニトマト: 4000倍</p>	<p>本病はトマトのみに発生する。</p> <p>薬剤散布の際は葉の裏側を重点的に散布する。</p> <p>●耐性菌が出やすいので連用しない。</p> <p># トマトとミニトマトで使用回数異なるので注意する。</p>
すすかび病	生育期	<p>1. 発生を認めたら次の薬剤のいずれかを散布する。</p> <p>アフエットフロアブル☆ 2000倍 アミスターオブティ フロアブル☆# 1000倍 ダコニール1000(FL)☆# 1000倍 トリフミン水和剤☆ 3000倍 ベルクートフロアブル☆# トマト: 2000～4000倍 ミニトマト: 4000倍</p>	<p># トマトとミニトマトで使用回数異なるので注意する。</p>
うどんこ病	生育期	<p>1. 発生を認めたら次の薬剤のいずれかを散布する。</p> <p>アフエットフロアブル☆ 2000～4000倍 カリグリーン水溶剤☆ 800～1000倍 パンチョTF顆粒水和剤☆● 2000倍 ベルクートフロアブル☆# トマト: 2000～4000倍 ミニトマト: 4000倍</p>	<p>●耐性菌が出やすいので連用しない。</p> <p># トマトとミニトマトで使用回数異なるので注意する。</p>
斑点病	定植後	<p>・発生期に次の薬剤のいずれかを予防的に散布する。</p> <p>ドイツボルドーA(水)☆ 500倍 ロブラール水和剤☆ 1000倍</p>	<p>斑点病は施設栽培で換気不良、露地で多湿条件が続くと発生しやすい。</p>
萎凋病	播種前	<p>1. 床土消毒を行う。</p> <p>2. 抵抗性品種を栽培する。</p>	<p>萎凋病には3つのレースがある。</p>

*1: トマトとミニトマト(直径3cm以下のもの)は使用できる農薬が異なる。

☆: トマトとミニトマトの両方に使用できる農薬(無印はトマトのみに登録のある農薬)

トマト、ミニトマト*¹(野菜類の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
	定植前	1. 発病畑は消毒する(土壤消毒の項参照)。 2. 定植の際、病苗を植えないようにする。	高温期に発生が多い。
	生育期	・次の薬剤を定植前～定植1ヵ月後までに、株当たり150～300mL土壤灌注する。 ベンレート水和剤☆⊙ 1000倍	
半身萎凋病	播種前	・抵抗性品種を栽培する。	東京都では抵抗性品種の導入により、現在ではほとんど発生がないが、他県では、レース1抵抗性品種を侵すレース2の発生が報告されている。

*1: トマトとミニトマト(直径3cm以下のもの)は使用できる農薬が異なる。

☆: トマトとミニトマトの両方に使用できる農薬(無印はトマトのみに登録のある農薬)

トマト、ミニトマト*1(野菜類の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
苗立枯病	播種前	1. 過密な播種を避け、苗床の過湿に注意する。 2. 苗床床土の消毒をする(土壌消毒の項参照)。	病原菌はリゾクトニア菌、ピシウム菌、フザリウム菌による。 # リゾクトニア菌にのみ有効である。
	発芽後	・発病株は直ちに除去し、次の薬剤のいずれかを灌注する。 オーソサイド水和剤80 800倍 2L/m ² ダコニール1000(FL) # 1000倍 3L/m ² バシタック水和剤75☆ # 750~1500倍 3L/m ² モンカット水和剤☆ # 500~1000倍 3L/m ² リゾレックス水和剤 # 500倍 3L/m ²	
輪紋病	定植後	・発生を認めたら次の薬剤のいずれかを散布する。 カスミンボルドー(水) 1000倍 ダコニール1000(FL) ☆ # 1000倍 ベンコゼブフロアブル☆ 1000倍 ロブラール水和剤☆ 1000倍 Zボルドー(水) ☆ 400~600倍	輪紋病は気温が比較的高く、乾燥状態のときに発生する。 # トマトとミニトマトで使用回数が異なるので注意する。
アルタナリア茎枯病	定植後	1. 施設栽培では過湿に注意する。 2. 降雨時や降雨が予想される前には芽かきや剪定作業を行わない。	低温多湿条件で発生し茎の地際部や芽かき跡等傷口から発病する。
斑点細菌病	生育期	・発生を認めたら次の薬剤を散布する。 カスミンボルドー(水) 1000倍	斑点細菌病は葉柄や果実にそうか状の白色病斑を生じる。 この他に茎えそ細菌病があるが、茎の導管部が褐色~黒色になり萎れる点で異なる。
かいよう病	生育期	1. 発生を認めたら次の薬剤を散布する。 カスミンボルドー(水) 1000倍 2. 発病株は早めに処分する。	本病はトマトのみに発生し、土壌伝染をする。病原菌は長期間土壌中に生き残る。 2次的に発病株の汁液によって伝染するので感染の疑いのある株の摘芽、誘引は最後に行う。

*1: トマトとミニトマト(直径3cm以下のもの)は使用できる農薬が異なる。

☆: トマトとミニトマトの両方に使用できる農薬(無印はトマトのみに登録のある農薬)

トマト、ミニトマト*1(野菜類の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
褐色根腐病	播種前	1. 発生地では床土、本畑を土壤消毒する(土壤消毒の項参照)。 2. KCF T-N2号、耐病新交1号、ドクターK、バルカン、フレンドシップなどを台木として接木栽培を行う。	施設長期多段どり栽培で発生しやすく、発病適温は地温15~18℃。
	生育期	・発病株を早めに処分する。	
青枯病	播種前	1. 床土消毒を行う(土壤消毒の項参照)。 2. ボランチ、Bバリア、アンカーT、レシーブ等を台木として接木栽培を行う。 3. 排水を良好にし、大雨時の圃場の湛水などに注意する。	病原菌はトマトのほかナス、トウガラシ、ピーマン、ジャガイモ、タバコ、ダイコン、イチゴ、ゴマその他多くの植物を侵し、土壤中に1年以上生存する。
	生育期	・発病株は早めに処分する。	
モザイク病	苗床期	1. 寒冷紗で被覆し、アブラムシの飛来を防ぐ。 2. 有翅アブラムシを防除する。	CMVは多くの野菜類、花き類などにモザイク病をおこし、アブラムシによって伝染する。近年、東京都で発生しているモザイク病はほとんどがCMVによる。シルバーマルチ(ムシコン等)によるマルチ栽培はアブラムシの飛来を減少させる効果がある。
キュウリモザイクウイルス(CMV)	定植時 ~定植後	1. アブラムシ類を防除する。 2. 早期に発病した株は、速やかに処分する。 3. 汁液により容易に感染するので、罹病の疑いがある株の管理は最後に行く。	
モザイク病	播種前	・耐病性品種を用いる。	TMVは多くのナス科植物にモザイク病をおこすが、近年東京都ではほとんど発生が認められない。 TMVは土壤伝染および汁液により伝染するが、虫媒伝染はしない。
タバコモザイクウイルス(TMV)	生育期	1. 作業を始める前に手やはさみを清潔にする。 2. 早期に発病した株はすみやかに処分する。 3. 芽かきや誘引は健全株からはじめ、感染の疑いのある株は最後に行く。	

*1: トマトとミニトマト(直径3cm以下のもの)は使用できる農薬が異なる。

☆: トマトとミニトマトの両方に使用できる農薬(無印はトマトのみに登録のある農薬)

トマト、ミニトマト*¹(野菜類の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
黄化えそ病 トマト黄化えそウイルス(TSWV)	育苗期 ～生育期	<ol style="list-style-type: none"> 1. アザミウマ類を防除する。 2. 施設では開口部に寒冷紗などを張り、アザミウマ類の侵入を阻止する。また、感染植物の持ち込みに注意する。 3. 発病株は早期に処分する。 	<p>TSWVは極めて多犯性で、特にキク科、ナス科、マメ科植物で被害が激しい。</p> <p>アザミウマ類により伝搬される。特にミカンキイロアザミウマの伝搬能力が高い。</p> <p>幼苗期に感染すると早期に株が枯死する。</p>
黄化葉巻病 トマト黄化葉巻ウイルス(TYLCV)	育苗期	<ol style="list-style-type: none"> 1. 施設開口部には0.4mm目合いのネットを張り、タバココナジラミの侵入を阻止する。 2. 苗を持ち込む場合には、感染が疑われる苗やコナジラミ類の寄生に注意する。 3. 黄色粘着トラップを設置し、コナジラミ類の発生を監視する。 4. コナジラミ類の発生がみられたら直ちに防除を行う。 5. 発病株は処分する。 6. 栽培終了後には根を引き抜き、ハウスを密閉し、蒸し込みを行う。 	<p>TYLCVは感染すると、葉が黄化、小型化して表側に巻上がる。発症後はほとんど収穫できない。</p> <p>タバココナジラミによつてのみ伝搬される。7月～10月に育苗する抑制・促成長期どりの作型では特に注意を要する。</p>
アブラムシ類	定植時	<ul style="list-style-type: none"> ・ 次の薬剤のいずれかを植穴に施用し、土とよく混ぜる。 アドマイヤー1粒剤☆ 1～2g/株 オルトラン粒剤 1～2g/株 ベストガード粒剤☆ 1～2g/株 	
	生育期	<ul style="list-style-type: none"> ・ 発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 ウララDF☆ 2000～4000倍 マラソン乳剤 2000～3000倍 モスピラン顆粒水溶剤☆ 2000倍 	

*1: トマトとミニトマト(直径3cm以下のもの)は使用できる農薬が異なる。

☆: トマトとミニトマトの両方に使用できる農薬(無印はトマトのみに登録のある農薬)

トマト、ミニトマト*¹(野菜類の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
コナジラミ類	定植時	1. 施設では近紫外線除去フィルムを展張し、開口部は0.4mm目合いの防虫ネットを張る。特に抑制栽培と促成長期どり栽培の作型では設置が望ましい。 2. 次の薬剤のいずれかを植穴に施用し、土とよく混ぜる。 アルバリン粒剤☆ 1~2 g/株 スタークル粒剤☆ 1~2 g/株 ベストガード粒剤☆ 1~2 g/株	
	生育期	・発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 アブロードエースフロアブル 1000~2000倍 アルバリン顆粒水溶剤☆ 2000~3000倍 オレート液剤☆*△ 100~300倍 コルト顆粒水和剤☆ 4000倍 コロマイト乳剤☆ 1500倍 スタークル顆粒水溶剤☆ 2000~3000倍 ベストガード水溶剤☆ 1000~2000倍	*野菜類での登録 △オレート液剤はアルカリ性のため、他の薬剤との混用および近接散布に注意する。
アザミウマ類	生育期	・発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 スピノエース顆粒水和剤☆ 5000倍 ベストガード水溶剤 1000~2000倍	果実に白ぶくれ症状を呈する。 TSWVを伝染させ黄化えそ病を発生させる。特にミカンキイロアザミウマは伝搬能力が高い。
トマトハモグリバエ	定植時	・次の薬剤を植穴に施用し、土とよく混ぜる。 モスピラン粒剤☆ 1 g/株	
	生育期	・発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 カスケード乳剤☆ 2000倍 トリガード液剤☆#1 1000倍 プレオフロアブル☆#1 1000倍 プレバソンフロアブル5☆#1 トマト： 1000~2000倍 ミニトマト： 2000倍	△カスケード乳剤は比較的遅効性である。 #1ハモグリバエ類で登録

*1: トマトとミニトマト(直径3cm以下のもの)は使用できる農薬が異なる。

☆: トマトとミニトマトの両方に使用できる農薬(無印はトマトのみに登録のある農薬)

トマト、ミニトマト*1(野菜類の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
オオタバコガ	生育期	・発生を見たら若齢幼虫のうちに次の薬剤のいずれかを散布する。 アファーム乳剤☆ 2000倍 エスマルクDF☆* 1000倍 カスケード乳剤☆ 2000～4000倍 フェニックス顆粒水和剤☆ 2000～4000倍 プレオフロアブル☆ 1000倍 プレバゾンフロアブル☆ 2000倍	*野菜類での登録
ハスモンヨトウ	生育期	・発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 アタプロン乳剤☆ 2000倍 ゼンターリ顆粒水和剤☆* 1000倍 フェニックス顆粒水和剤☆ 2000～4000倍 プレオフロアブル☆ 1000倍 マッチ乳剤☆ 3000倍	*野菜類での登録
トマトサビダニ	生育期	・発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 アファーム乳剤☆ 2000倍 イオウフロアブル☆△ 400倍 マッチ乳剤☆ 2000倍	夏期高温時(28℃以上)の散布はさける。 △イオウ剤は臭気の付着に注意する。また、石灰硫黄合剤、ボルドー剤との混用はしない。
ネコブセンチュウ	播種前 定植前	1. 耐虫性品種を栽培する。 2. 床土は土壤消毒する(土壤消毒の項参照)。 3. 作付予定地で、前作物に寄生があったところでは土壤消毒する(土壤消毒の項参照)。 4. 次の薬剤のいずれかを土壤混和する(定植前)。 ネマトリンエース粒剤☆ 15～20kg/10a	

*1: トマトとミニトマト(直径3cm以下のもの)は使用できる農薬が異なる。

☆: トマトとミニトマトの両方に使用できる農薬(無印はトマトのみに登録のある農薬)